

JAPAN ICT DAY 視察実施報告

2024年12月2日(月)～3日(火)
ベトナム国立会議場(ハノイ)

JISAのカウンターパートであるベトナムソフトウェア協会(VINASA)では、日本とのソフトウェアビジネスを推進するため、日越IT協力委員会(VJC)を組織し、2007年より日越ソフトウェア企業間での交流イベントであるJapan ICT Dayを毎年秋に開催している。

今年は、VINASAが開催するSmart City SummitとあわせてJapan ICT Dayが開催され、JISA国際委員会ではベトナムとの交流継続の重要性が高まっているとの観点から、訪越ミッション(団長：川本淳也 国際委員会国際部会長・(株)NTTデータ)を組織し、計6名が参加した。



実施概要

SMART CITY SUMMIT

- 12月2日（月）午前

主な登壇者（敬称略）

- 建設省都市開発庁
トラン・ゴック・リン
- ハノイ情報通信局長
グエン・ヴィエット・フン
- VNPT グループ
AI アプリケーション 副チーフ
ファン・チー・タン・ゴック
- Viettelビジネスソリューションズ
データ分析センター副所長
グエン・マン・ハ
- ホーチミン市情報通信局長
ラム・ディン・タン

JAPAN ICT DAY

- 12月2日（月）午後

主な登壇者（敬称略）

- 日越IT協力委員会長／LUVINA代表取締役社長
ル・クアン・ルオン
- 情報サービス産業協会（JISA）
国際協力委員会委員長
川本 淳也
- 日本貿易振興機構（JETRO）
安長 裕
- 日越IT協力委員会／NTTe-MOI CEO
渡辺 晃

企業訪問

- 12月3日（火）終日

訪問先

- GMO-Z.com RUNSYSTEM
- Luvina software
Joinstock Company
- Miichisoft
- NTTe-MOI „JSC
- Solashi



JAPAN ICT DAY 主なポイント

- ベトナムのGDPは直近10年間で約2倍に成長
- 国全体での平均年齢が約33歳、人口の45%は30歳以下という人口構成から、今後も大きな成長が見込まれる
- 生産機能がダウントレンドとなり、昨今は販売機能もベトナムに置く形態がアップトレンド
- 日本が発注し、ベトナム側が受注するという単純構図は終わりつつある
- 日本のオフショア発注先は、これまで約90%が中国。

しかしながら、カントリーリスクの観点からベトナムへの移行が予測される。

- 他方、ベトナムでのIT教育はほとんどが英語で行われており、日本語の壁の問題は無視できない
- 日本側が英語対応可能な人材まで受け入れれば、門戸は格段に広がる



JAPAN ICT DAY2024の様子





企業訪問の様子

